

## 226. 漢字の下水道用語、どこまで中国で通用するんでしょう？

技術開発室 総括主任研究員 糸川 浩紀

四半世紀ほど前になりますが、邪な理由から中国語を勉強していたことがあります（4人でやる遊びの隠語ではなく、文字通りの方です）。NHK ラジオ講座の一番やさしいやつを6シーズン（半年×3年）ループするという、今思えば謎の学習を続けた結果…、結局、旅行者会話に毛が生えたくらいのレベルにしかありませんでしたが、今でも興味は持っています。

というわけで（？）、海外へ行けてない憂さ晴らしを兼ねて、今回は、ふだん馴染みのある下水道用語、中国語でどう言うんだろう？ 漢字でどれくらい通用するんだろう？（逆方向も同様）、という疑問を出発点に、調べてみた結果を記してみます。中国語の“手紙”はトイレトペーパー、というのは有名な話ですが、もう少し専門的な用語について、ということで。全く実務の役には立ちませんので、息抜きにでも、読んでやって下さい。

ちなみに、ネットで適当に調べたわけではなく、衛生工学系 Ph.D.持ちの中国語ネイティブに直接訊いたので、それなりに正しいと思いますが、裏はとってません。不正確な内容があってもご容赦下さい…。

↓以下、「日本語」、「中国語」、で表記上の区別をします。どちらも漢字なので…。

まずは基本的なところから。「下水」は“汚水”ですが、「下水道」は“下水道”、「下水処理場」は“污水处理厂”と、下水と汚水が入り乱れている感があります。日本語でもブレがちなところですが、中国語では用語的にブレているわけではありません。中国語の“下”は動詞的な用法が多く、“下水”＝「使った水を流すこと」（流す水の方ではなく）の意味で理解されるみたいです。なので、“下水道”は OK だけど“污水处理厂”とは言わない、ということになります。最後の“厂”は“廠”の簡体字で、「工場」の意味だそうです（主に大陸の中国語でデフォルトになっているスカスカした漢字を簡体字といいます）。ちなみに、「上水/飲料水」は“自来水”と言いますが、家まで水が来てくれる有難味が感じられて良いですね。更にちなみに、「ダム」は“水库”（日本の漢字で書くと「水庫」）、漢字の意味を考えれば直球で、あ～なるほどね、という感じです。

下水処理場に入って、「沈砂池」は“沉砂池”、「最初沈殿池/最終沈殿池」は“预沉池/最终沉淀池”と、“沉”が「沈」であることが判れば、理解可能な範囲です（“淀”＝“澱”、です）。生物反応タンクは“生物反应槽”ですが、“应”＝“應”なので「反応」と同じですね。「スクリーン」は“格栅”、「ポンプ」は“泵”で、難易度が上がります。前者はまだ何となくイメージが湧きますが、後者は…わかりません（元々、井戸のポンプを指す語のようです；だからイシミズ…）。「攪拌機」は“搅拌机”ですが、“机”は“機”の簡体字なので、中国語では大抵の機械が机になります（例

えば「手机」は携帯電話)。「送風機」は“鼓风机”…うーん、わかるようなわからないような(“風”=「風」で、空気を吹込むことを“鼓風”と言うみたいです)。「散気装置」は“空气扩散装置”と、ちょっとカッコイイ感じがします(拡散波動砲以来、装置名に「拡散」が付くだけでカッコよく感じるのは、私だけですかね…)。「曝気」は“曝气”ですが、日本語の「気」は中国語では“气”と、より空気っぽくなります(中身が消えてるから)。処理工程を進めて、「急速ろ過」は“快速过滤”。後半は日本の漢字で書くと「過濾」で、引っ繰り返っているんですね。文法的に語順が逆だからでしょうか(超テキトー言ってます)。水処理ついでに、「一次処理」、「二次処理」は、“一級処理”、“二級処理”と呼ぶそうです。この調子で「高度処理」も“高級処理”になりますが、これは日本語では別の意味になりますね(最近は殆ど目にすることがないですが)。

「活性汚泥法」=“活性污泥法”、「生物膜法」=“生物膜法”と、この辺は完全一致で楽勝です。「OD法」は“氧化沟法”で、一瞬、ナンジャ?となりますが、“氧”=「酸素」、「沟」=「溝」で「酸化溝」。そう、ODの直訳風和訳と同じになります。「返送汚泥」は“回流污泥”、「余剰汚泥」は“剰余污泥”と、微妙に日本語と違いますが、想像はつきます。漢字ってすごいですね。ちなみに、活性汚泥に住んでる「微生物」は“微生物”、「細菌」は“细菌”で同じですが、「ウイルス」は“病毒”と、なかなかのものです。「大腸菌」は“大肠杆菌”。前半は「大腸」で同じですが、後半は「桿菌」と少し微生物学的な精度が上がっている気がします(「桿菌」は、短い棒状の細菌の総称で、形による分類の微生物学用語です)。ちなみに、BOD、MLSS、SRTなど、アルファベットで略記される指標名なんかは、だいたいそのまま通じるみたいです(漢字表記もあるけれどアルファベットも使われる、という事情も日本語と同じ)。

汚泥処理に行きます。「濃縮」=“浓缩”、「消化」=“消化”、「脱水」=“脱水”と、簡体字が混ざってますが、ほぼほぼ同じでイマイチ面白くないです(「汚泥処理」も“污泥处理”です)。「焼却」は“焚烧”と日本語と異なりますが、燃やす気満々の感じは伝わってきます(何と言っても、“焚”は始皇帝の焚書坑儒で出てくるやつですから…)。ちなみに、汚泥繋がり、で、“化粪池车”は想像がつかますか? (“车”は「車」です。)…そう、バキュームカーですね。日本語よりも中身感が強く出ていますが、“化粪池”は一つの成語で、セプティックタンク、日本で言う浄化槽的なものを指すそうです。

先ほど「酸素」=“氧”が出てきましたが、その他の元素を並べると、「水素」=“氢”、「窒素」=“氮”、塩素=“氯”と、眩暈がしそうになります。寿司屋の湯飲みの「気」版みたいです。「炭素」=“碳”、「リン」=“磷”など、元素が「気」で統一されているわけではないみたいですが。「窒素除去」は“除氮”、「リン除去」は“除磷”と、「除湿」的な表現をするみたいです。ただし、「有機物除去」は“有机物去除”だそうです(また“机”ですね;「除去」のところがひっくり返っているのが興味深いところ)。

最後に、下水道からは離れますが、最近ばい言葉を幾つか。「気候変動」は“气候变化”、「地球温暖化」は“全球暖化”だそうです。日本語と微妙に違いますが、理解可能な範囲ですね。中国語でも「地球」は“地球”なのですが、温暖化では“全球”になります。“global warming”を

訳したんでしょうけど、深刻感が何割増しかの印象を受けます。「温室効果ガス」は「温室気体」、カーボンニュートラルは「碳中和」と、新しい言葉ほど直訳調が多くなるので解りやすいです（上で出てきましたが、「碳」は炭素です）。「二酸化炭素」＝「二氧化碳」、「亜酸化窒素」＝「一氧化氮」なんかは、元素名の応用編ですね。ちなみに、「SDGs」は「可持续发展目標」だそうです。「持続」は「持続」、「可持続」で「持続可能」になります。後半の「発展」は「発展」、「目標」は「目標」なので、「Sustainable Development Goals」の直訳ですね。日本語では「持続可能な開発目標」と訳されていますが、SDGs の「Development」は「開発」よりも「発展」の方が、しっくり来る気がします（「R&D」の D は「開発」でよいんですけどね）。

本当の最後になりますが、「デジタル化」は「数字化」、「DX」は「数字化转型」、だそうです。「デジタル」が「数字」、「転」は日本語の「転」で、「转型」＝「変換」、だそうです。要は「digital transformation」の直訳なんですけど、こういうのは、真面目に勉強しないと解らないですね…。「デジタル」の方ですが、元々「digital」というのは「数字で表すこと」を意味する単語ですので、中国語は直球で、「数字」という語が持つ概念の範囲が日本語より広いことになります。これに対して、カタカナを使って別概念の単語を容易に量産してしまうのは日本語の優れたところですが、逆に、単語の由来や定義が曖昧になってしまう、よく理解していないけれどもそれっぽく使ってしまう、という難点もある点は、意識しておく必要があると思います（カタカナ語の乱用には要注意、ということでも…）。

以上、延々と日本語と中国語を並べてきましたが、一部、難易度が高い語があるものの、多くの下水道用語は、漢字を介せば意志疎通くらいはできるような気がしてきませんか？他の言語でも同様だと思いますが、生活に密着した単語、古くから使われている単語ほど、各言語の独自色が強くなり直感での理解が難しくなる傾向にあると思います。逆に言うと、ここ数十年くらいで出てきた専門用語なんかは、元ネタからのバリエーションが小さくて類推による見当が付きやすいことが多いものです。

ただし、当然ですが、漢字が同じでも「読み」は全く異なりますので、会話で使おうとすると、真面目に中国語を勉強するしかなさそうです。少しでも中国語を勉強された方ならお分かりでしょうけど、日本語の「音読み」で何とかなる、とかいうレベルでは、全くありません。中国語の音の数はハンパでなく、「日本人」という小学 1 年生漢字しか使っていない基本語ですら、練習しないと日本人には発音できません…。

は～、仕事でも旅行でも何でもよいので、そろそろ海外行きたいですね…。